



目次

- 1. 改訂情報
- 2. はじめに
 - 本書の目的
 - 対象読者
 - 本書の構成
- 3. メニュー機能
 - 目的
 - メニューの種類
 - メニューの構成
 - メニューにおける認可の仕様
- 4. インポート・エクスポートの概要
 - インポート・エクスポート機能
 - インポート・エクスポートで扱う情報
 - インポート・エクスポート手順
- 5. ファイルフォーマット
 - メニューグループカテゴリ
 - メニューグループ
 - 互換性
- 6. インポート
 - 更新モード
 - メニューグループカテゴリ
 - メニューグループ
 - インポートの依存関係
- 7. エクスポート
 - メニューグループカテゴリ
 - メニューグループ
- 8. オプション
 - インポートオプション
 - エクスポートオプション
- 9. 実行方法（メニューグループカテゴリ）
 - ジョブスケジューラを利用する
 - Javaから実行する
 - スクリプト開発モデルプログラムから実行する
- 10. 実行方法（メニューグループ）
 - ジョブスケジューラを利用する
 - Javaから実行する
 - スクリプト開発モデルプログラムから実行する
- 11. 付録
 - メニューインポートデータ定義書

変更年月日	変更内容
2014-05-01	初版
2014-08-01	第2版 下記を追加しました <ul style="list-style-type: none">■ 「メニューグループに対しての参照権限」にURLでの直接アクセスについて説明を追記■ 「URLに対しての実行権限」にURLでの直接アクセスについて説明を追記
2015-04-01	第3版 下記を追加しました <ul style="list-style-type: none">■ 「メニュー機能」の「メニューグループカテゴリ」の表の列に導入バージョンを追加■ 「メニュー機能」の「メニューグループカテゴリ」の表に新たに追加されたIDを追加

本書の目的

本書ではメニュー情報のインポート・エクスポート機能の詳細について説明します。

説明範囲は以下のとおりです。

- メニュー情報のインポート・エクスポートの概要
- メニュー情報のインポート・エクスポートファイルのデータフォーマット
- メニュー情報のインポート・エクスポートの実行方法
- メニュー情報のインポート・エクスポートの実行オプション

対象読者

本書では次の利用者を対象としています。

- intra-mart Accel Platform のメニューを管理する運用担当者
- メニュー情報のインポート・エクスポート機能を利用したアプリケーションを開発する開発者

本書の構成

- [メニュー機能](#)

メニュー機能について説明します。

- [インポート・エクスポートの概要](#)

メニューのインポート・エクスポートの概要について説明します。

- [ファイルフォーマット](#)

インポートファイルのデータフォーマットについて説明します。

- [インポート](#)

インポートの処理について説明します。更新モードについても説明します。

- [エクスポート](#)

エクスポートの処理について説明します。

- [オプション](#)

インポート・エクスポート実行時に指定可能なオプションについて説明します。

- [実行方法 \(メニューグループカテゴリ\)](#)

メニューグループカテゴリのインポート・エクスポート実行方法について説明します。

- [実行方法 \(メニューグループ\)](#)

メニューグループのインポート・エクスポート実行方法について説明します。

項目

- 目的
- メニューの種類
- メニューの構成
 - メニューグループカテゴリ
 - メニューグループ
 - メニュー情報
 - メニューフォルダ
 - メニューアイテム
 - 外部メニューリンク
- メニューにおける認可の仕様
 - メニューグループカテゴリ、メニューグループに対しての管理権限
 - メニューグループに対しての参照権限
 - URLに対しての実行権限

目的

メニューとは、業務画面へアクセスするためのショートカットとなるリンクを集めたものです。

一般ユーザ視点から見ると、業務画面へのアクセス性を向上させることができます。

メニューからアクセスすることで直接 URL を指定してアクセスすることがなく、一般ユーザが行おうとしている業務のスタート地点に素早く到達できることを目的としています。

管理者視点から見ると、テナントごとに利用者の行動パターンに則した動線設計でショートカットを構成することができます。

テナントによって異なるログインユーザごとの業務特性を考慮したメニューを管理者が設定できるようになり、ログインユーザがよく使用する業務画面へアクセスしやすくなることを目的としています。

メニューの種類

intra-mart Accel Platform のメニューには以下の種類があります。

1. グローバルナビ

サイト内の各ページに共通して設置されているサイト内の各コンテンツをログインユーザに案内するためのメニューです。

現在アクセスしているページの場所に関わらず、画面の上部に表示され、目的のページへ素早くアクセスすることができます。

ここには全ての画面ではなく、ログインユーザがよく使うと思われる業務画面への入り口をメニュー管理者（テナント管理者からメニューに関する権限を与えられた管理者）が厳選して登録しておくことで、ログインユーザの利便性を向上させます。

初期状態では、モジュール製作者が作成したデフォルトのメニュー構成が登録され、メニュー管理者が自由に編集することができます。

2. サイトマップ

サイト内の各業務画面への入り口をすべて表示して、利用可能なサービスの一覧をログインユーザに提供するメニューです。

初期状態では、モジュール製作者が作成したデフォルトのメニュー構成が登録され、メニュー管理者が自由に編集することができます。

3. マイメニュー

ログインユーザが intra-mart Accel Platform 上でアクセス中のページを簡単にブックマークとして記録しておく機能です。

ブラウザのブックマークとは別に intra-mart Accel Platform 上でブックマークを管理します。

ログインユーザ自身で、ブックマークの登録や編集を自由に行うことができます。



画面における各メニューの配置

メニューの構成

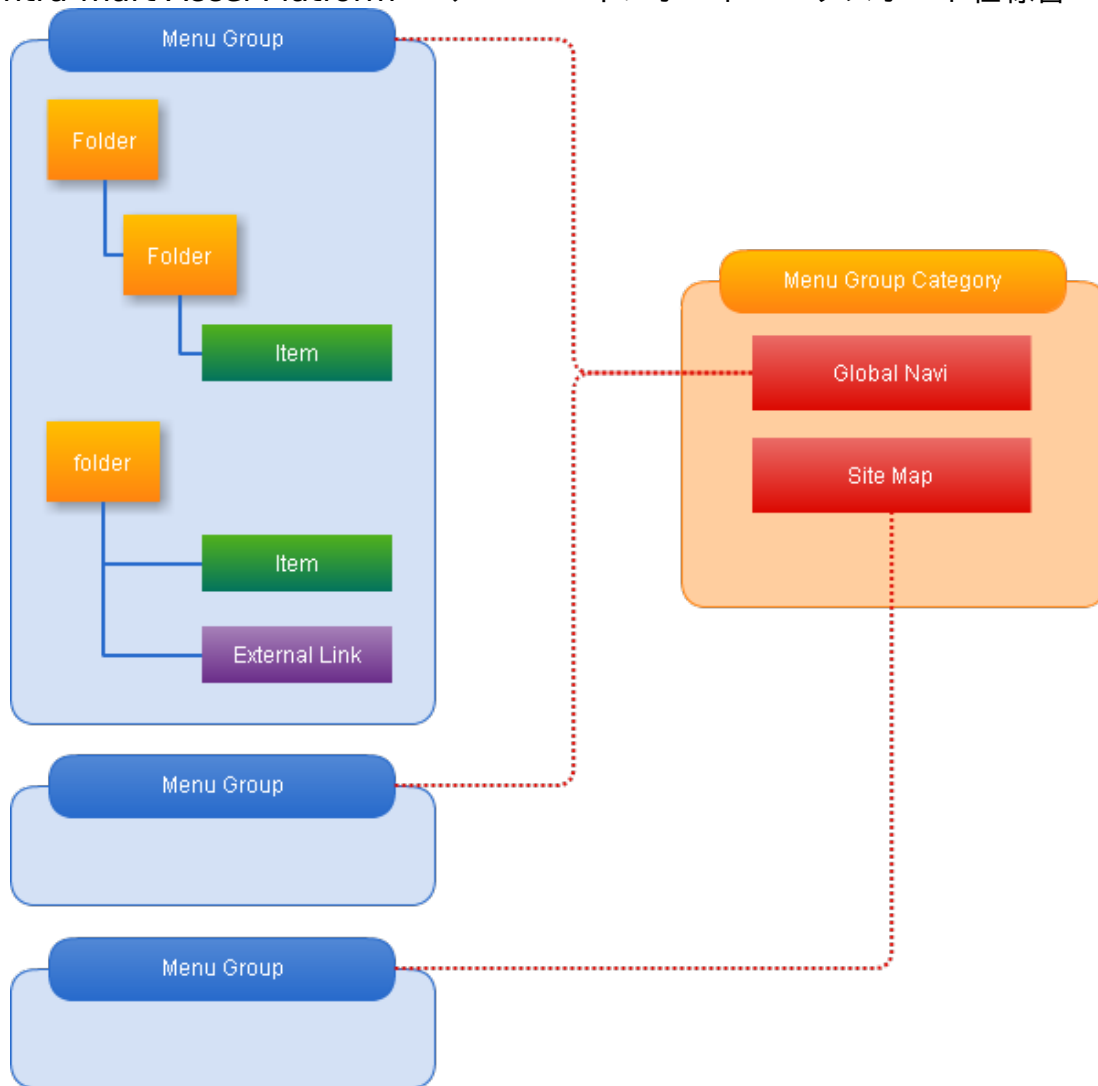


図 メニューの構成

メニューグループカテゴリ

複数のメニューグループの集合体で、モジュール、クライアントタイプ（PC・スマートフォン）などの単位で管理することができます。（図中の **Menu Group Category**）

メニューグループカテゴリは、メニュー設定画面上で追加・変更・削除することはできません。

intra-mart Accel Platform をインストールした直後の初期状態では、以下のメニューグループカテゴリが用意されています。

メニューグループカテゴリ ID	用途	モジュールID	導入バージョン
im_global_nav_pc	PC用のグローバルナビ	jp.co.intra_mart.im_tenant	2012 Autumn
im_global_nav_sp	スマートフォン用のグローバルナビ	jp.co.intra_mart.im_mobile_framework	2012 Autumn
im_sitemap_pc	PC用のサイトマップ	jp.co.intra_mart.im_tenant	2012 Autumn
im_sitemap_sp	スマートフォン用のサイトマップ	jp.co.intra_mart.im_mobile_framework	2012 Autumn

メニューグループカテゴリ ID	用途	モジュールID	導入バージョン
im_personal_settings_pc	PC用のテーマで右上に表示される個人設定メニュー	jp.co.intra_mart.im_tenant	2012 Autumn
im_site_help_pc	PC用のテーマで右上に表示されるヘルプドロップダウンのメニュー	jp.co.intra_mart.im_tenant	2014 Winter

メニューグループカテゴリには認可により権限を設定することができます。
詳しくは [メニューにおける認可の仕様](#) を参照してください。

メニューグループ

メニューの集合体を管理するものです。（図中の **Menu Group**）
業務画面へのリンクや階層構造を持つために、メニューグループ内で、メニューフォルダ、メニューアイテム、外部メニューリンクを管理することができます。

メニューグループには認可により権限を設定することができます。
詳しくは「[メニューにおける認可の仕様](#)」を参照してください。

メニュー情報

メニューを構成する最小単位の情報です。
メニュー種別によってメニューフォルダ、メニューアイテム、外部メニューリンクに分類されます。

メニューフォルダ

メニューグループ内のメニューの階層構造を構成するものです。（図中の **Folder**）
メニュー種別は「**folder**」です。

メニューフォルダ自身には認可による権限を設定できず、配下に登録された一部、または、全てのメニューアイテムが表示状態になるとき、メニューフォルダが表示されます。
また、全てのメニューアイテムが非表示状態になるときは、メニューフォルダは表示されません。

メニューアイテム

業務画面の入り口へアクセスするためのリンクを構成するものです。（図中の **Item**）
メニュー種別は「**item**」です。

外部メニューリンク

外部メニューを表示するためのリンクを構成するものです。（図中の **External Link**）
リンクを構成するための情報は、外部メニューを提供しているサーバから取得します。
外部メニューリンクは、実際に表示されるときに外部メニュー連携機能を利用して、外部メニューを提供しているサーバから最新の情報を取得して表示されます。
詳しくは、「[セットアップガイド](#)」-「[外部メニュー連携](#)」を参照してください。
メニュー種別は「**external**」です。

- 外部メニューリンクの利用

外部メニューリンクを利用するためには、メニュープロバイダの設定において、`editable` 属性を「true」に設定します。

これにより、メニュー設定画面で外部メニューリンクを設定することが可能となります。

詳しくは、「設定ファイルリファレンス」の「[外部メニュー連携接続先設定](#)」-「[メニュープロバイダの設定](#)」を参照してください。

また、外部メニューリンクが利用可能なのは、次のメニューグループカテゴリに属するメニューグループのみです。

- im_global_nav_pc
- 外部メニューの取得先の設定

取得先のプロバイダID、メニューIDを以下の書式でURLに設定します。

```
im-external-link://<プロバイダID>/<メニューID>
```



注意

外部メニューリンクを利用できるのは、2013 Autumn(Eden) 以降です。

メニューにおける認可の仕様

メニューの登録、更新、削除、および、参照は、認可 (IM-Authz) 機構を利用して制御されます。

メニューに関わる認可 (IM-Authz) 機構を利用した制御は以下の通りです。

認可 (IM-Authz) 機構の詳細については「[認可仕様書](#)」を参照してください。

- メニューグループに対する管理権限
リソースタイプ「メニューグループ」、アクション「管理」がこの設定に該当します。
- メニューグループに対する参照権限
リソースタイプ「メニューグループ」、アクション「参照」がこの設定に該当します。
- URLに対する実行権限
リソースタイプ「画面・処理」、アクション「実行」がこの設定に該当します。

メニューグループカテゴリ、メニューグループに対する管理権限

メニューグループに対する管理権限を付与することで、対象となるメニューグループの更新、および、削除を行うことが可能となります。

メニューグループの登録を行うためには、登録を行うメニューグループカテゴリへの管理権限が必要です。

このため、メニューグループのインポートを行う場合は必ずメニューグループの登録、および、更新が可能なユーザで行ってください。

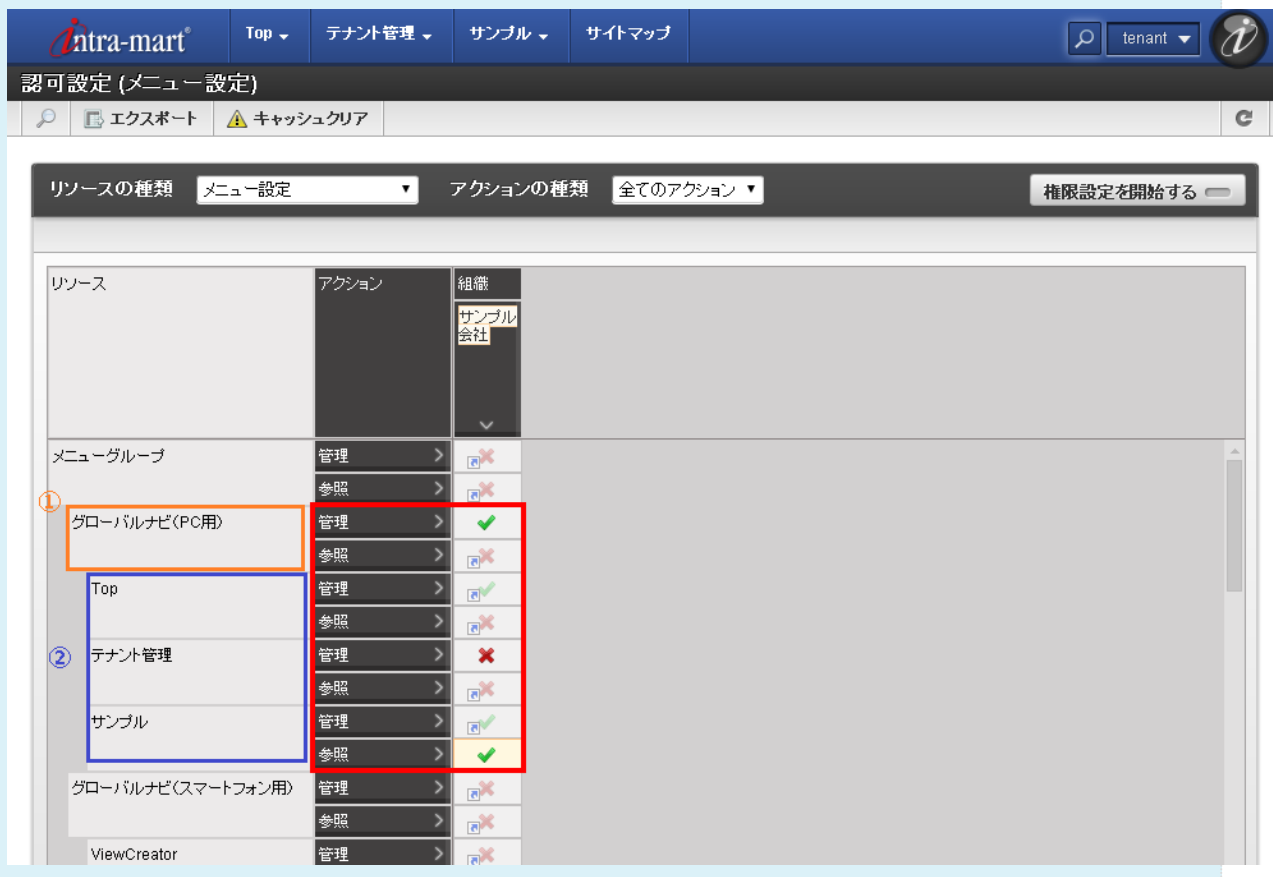
ジョブ機能を利用してインポートを実行する場合、すべてのメニューグループが管理可能なものとして扱われます。

- 例1：メニューグループカテゴリ「グローバルナビ (PC用)」にメニューグループを登録する場合
メニューグループの認可リソース「グローバルナビ (PC用)」への管理権限を持つユーザである必要があります。
- 例2：メニューグループカテゴリ「グローバルナビ (PC用)」のメニューグループ「Top」を更新する場合
メニューグループの認可リソース「Top」への管理権限を持つユーザである必要があります。

コラム

メニューグループカテゴリの認可リソース（図中の①）に管理権限が付与されている場合、認可（IM-Authz）機構の認可設定の継承により、その配下のメニューグループ（図中の②）すべてが管理可能になります。

ただし、特定のメニューグループの管理権限に「禁止」の権限設定されている場合は管理できません。



リソース	アクション	組織
メニューグループ	管理 >	サンプル会社
	参照 >	
① グローバルナビ(PC用)	管理 >	✓
	参照 >	✗
Top	管理 >	✓
	参照 >	✗
② テナント管理	管理 >	✗
	参照 >	✗
サンプル	管理 >	✓
	参照 >	✓
グローバルナビ(スマートフォン用)	管理 >	✗
	参照 >	✗
ViewCreator	管理 >	✗

メニューグループに対する参照権限

メニューグループに対して参照権限を付与することで、そのメニューグループを参照することが可能となります。例えば、標準テーマでは画面上部にグローバルナビが表示されますが、そのメニューには、参照権限のあるメニューグループだけが表示されます。

注意

メニューグループの参照権限がない場合、メニューグループは表示されなくなりますが、メニューアイテムに設定されているURLで直接アクセスすることはできます。

URLに対する権限制御については、「[URLに対する実行権限](#)」を参照してください。

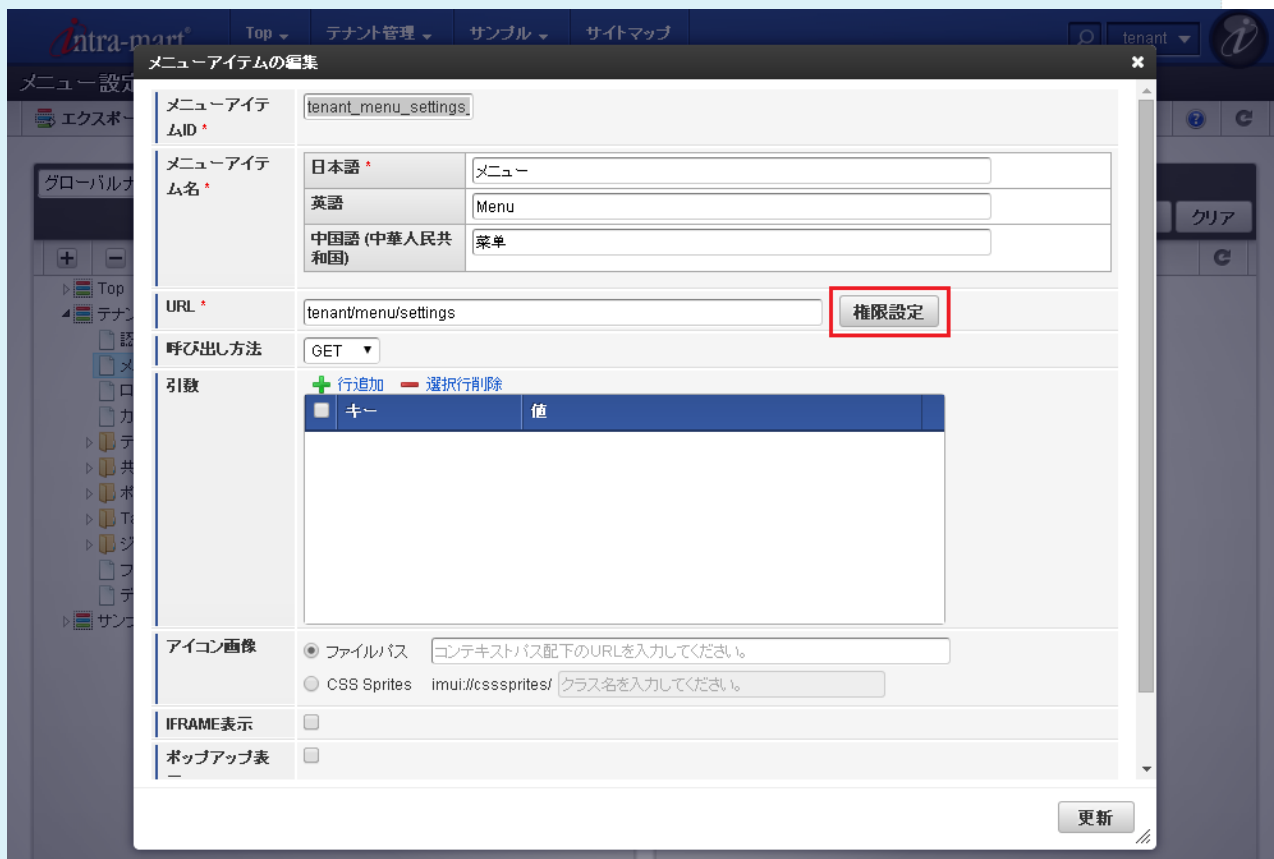
URLに対する実行権限

メニューのデータ種別が「item」であるメニューアイテムは、メニューアイテムが持つURLへの実行（閲覧）権限があるもののみ表示されます。

ただし、URLが外部サイトである場合は常に表示されます。

i コラム

メニューアイテムが持つURLへの実行権限は、メニュー設定画面のメニューアイテム編集時に「権限設定」ボタンをクリックすることで確認可能です。
 URLへの実行権限がない場合、ブラウザから直接URLを入力してアクセスした場合でも、アクセスが遮断されます。



項目

- インポート・エクスポート機能
- インポート・エクスポートで扱う情報
- インポート・エクスポート手順
 - メニューグループカテゴリ
 - インポート
 - エクスポート
 - メニューグループ
 - インポート
 - エクスポート

インポート・エクスポート機能

メニューには、メニューグループカテゴリ、メニューグループの2つのインポート・エクスポート機能があります。

メニューのインポート・エクスポートでサポートしているファイルフォーマットは、XML形式のみです。

メニューグループカテゴリ、メニューグループのインポートにおいて、削除を行う機能は提供されていません。

ただし、既存のメニューグループを置き換えることは可能です。

詳しくは、「[インポート](#)」 - 「[メニューグループ](#)」 - 「[メニューグループの更新モード](#)」 - 「[replace](#)」を参照してください。

インポート・エクスポートで扱う情報

メニューのインポート・エクスポートでは、XML形式でメニュー関連情報のインポート・エクスポートを行います。

メニューのインポート・エクスポートで扱う情報は次の通りです。

- メニューグループカテゴリ
 - [メニューグループカテゴリ情報](#)
 - [メニューグループカテゴリ表示名情報](#)
- メニューグループ
 - [メニューグループ情報](#)
 - [メニュー情報](#)
 - [メニュー引数情報](#)
 - [メニュー表示名情報](#)
 - [メニューグループカテゴリ内包情報](#)

インポート・エクスポート手順

メニューグループカテゴリ

インポート

メニューグループカテゴリのインポートを行う手順は次の通りです。

1. インポートファイルを作成します。
インポートファイルはXML形式で作成します。
詳しくは「[ファイルフォーマット](#)」 - 「[メニューグループカテゴリ](#)」を参照してください。
2. インポートファイルをパブリックストレージに配置します。
3. インポートファイルをインポートします。
インポートには、次の実行方法があります。
 - 「[ジョブスケジューラを利用する](#)」
 - 「[ジョブ](#)」 - 「[インポート](#)」
 - 「[ジョブネット](#)」 - 「[インポート](#)」
 - 「[Javaから実行する](#)」 - 「[インポート](#)」
 - 「[スクリプト開発モデルプログラムから実行する](#)」 - 「[インポート](#)」

エクスポート

メニューグループカテゴリのエクスポートを行う手順は次の通りです。

1. エクスポートします。
エクスポートには、次の実行方法があります。
 - 「[ジョブスケジューラを利用する](#)」
 - 「[ジョブ](#)」 - 「[エクスポート](#)」
 - 「[ジョブネット](#)」 - 「[エクスポート](#)」
 - 「[Javaから実行する](#)」 - 「[エクスポート](#)」
 - 「[スクリプト開発モデルプログラムから実行する](#)」 - 「[エクスポート](#)」
2. パブリックストレージにエクスポートファイルが出力されます。

メニューグループ

インポート

メニューグループのインポートを行う手順は次の通りです。

1. インポートファイルを作成します。
インポートファイルはXML形式で作成します。
詳しくは「[ファイルフォーマット](#)」 - 「[メニューグループ](#)」を参照してください。
2. インポートファイルをパブリックストレージ直下に配置します。
3. インポートファイルをインポートします。
インポートには、次の実行方法があります。
 - 「[ジョブスケジューラを利用する](#)」
 - 「[ジョブ](#)」 - 「[インポート](#)」
 - 「[ジョブネット](#)」 - 「[インポート](#)」
 - 「[Javaから実行する](#)」 - 「[インポート](#)」
 - 「[スクリプト開発モデルプログラムから実行する](#)」 - 「[インポート](#)」

メニューグループのエクスポートを行う手順は次の通りです。

1. エクスポートします。

エクスポートには、次の実行方法があります。

- 「[ジョブスケジューラ](#)を利用する」
 - 「ジョブ」 - 「[エクスポート](#)」
 - 「ジョブネット」 - 「[エクスポート](#)」
- 「[Javaから実行する](#)」 - 「[エクスポート](#)」
- 「[スクリプト開発モデルプログラムから実行する](#)」 - 「[エクスポート](#)」

2. パブリックストレージにエクスポートファイルが出力されます。

項目

- メニューグループカテゴリ
 - XMLファイルフォーマット
 - メニューグループカテゴリ情報
 - メニューグループカテゴリ表示名情報
- メニューグループ
 - XMLファイルフォーマット
 - メニューグループ情報
 - メニューグループカテゴリ内包情報
 - メニュー情報
 - メニュー引数情報
 - メニュー表示名情報
- 互換性

この章では、インポート・エクスポート機能で利用するファイルのフォーマットについて説明します。
ファイルフォーマットの詳細については「[メニューインポートデータ定義書](#)」を参照してください。

メニューのインポート・エクスポートでサポートしているファイルフォーマットは、XML形式のみです。

メニューグループカテゴリ

XMLファイルフォーマット

以下はXMLファイルの例です。

`<menu-group-category-data>` タグ内に1つのメニューグループカテゴリに関連する情報をすべて記述します。

```
<root xmlns="http://intra-mart.co.jp/im_menu/menu-group-category-data">
  <menu-group-category-data category="menu-group-category-1" selectable="true">
    <display-names>
      <display-name locale="ja">メニューグループカテゴリ 1 </display-name>
      <display-name locale="en">menu group category 1</display-name>
    </display-names>
  </menu-group-category-data>
  <menu-group-category-data category="menu-group-category-2" selectable="true">
    <display-names>
      <display-name locale="ja">メニューグループカテゴリ 2 </display-name>
      <display-name locale="en">menu group category 2</display-name>
    </display-names>
  </menu-group-category-data>
  <menu-group-category-data category="menu-group-category-3" selectable="true">
    <display-names>
      <display-name locale="ja">メニューグループカテゴリ 3 </display-name>
      <display-name locale="en">menu group category 3</display-name>
    </display-names>
  </menu-group-category-data>
</root>
```

インポートしたメニューグループカテゴリは、認可設定画面で確認することができます。

「XMLファイルの例」をインポートした時の認可リソース

i コラム

上記「XMLファイルの例」のように、英語、日本語の表示名しかない場合、個人設定のロケールを中国語にすると、メニューグループカテゴリの認可リソース名はテナントロケールの表示名で表示されません。

メニューグループカテゴリ情報

<menu-group-category-data> タグにメニューグループカテゴリ情報を記述します。

項目	ノード名	説明						
メニューグループカテゴリ ID	category	システム内部で使用されるメニューグループカテゴリの識別子です。						
選択可能フラグ	selectable	メニュー設定画面において、メニューグループカテゴリのセレクトボックスで選択可能かどうかを決める設定です。						
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>指定する値</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>true</td> <td>選択可能</td> </tr> <tr> <td>false</td> <td>選択不可能</td> </tr> </tbody> </table>	指定する値	説明	true	選択可能	false	選択不可能
指定する値	説明							
true	選択可能							
false	選択不可能							
更新可能フラグ	editable	※現在、使用されておりません。設定しないでください。						

メニューグループカテゴリ表示名情報

メニューグループカテゴリに設定された表示名です。

ロケールごとの表示名を保持します。

`<display-names>` タグ配下には、ロケールの数だけ `<display-name>` タグを記述します。

項目	ノード名	説明
表示名	<code><display-name></code>	メニューグループカテゴリに設定されている言語別の表示名です。 ロケールごとに設定可能です。
ロケールID	<code>locale</code>	メニューグループカテゴリ表示名のロケールです。ロケールIDで設定します。

メニューグループ

XMLファイルフォーマット

以下はXMLファイルの例です。

`<menu-group-data>` タグ内に1つのメニューグループに関連する情報をすべてを記述します。

```

<root xmlns="http://intra-mart.co.jp/im_menu/menu-group-data">
  <menu-group-data id="menu-group-1">
    <category id="im_sitemap_pc"></category>
    <menu-item menu-id="menu-group-1" sort-number="1" type="folder" method="get" use-
iframe="false" use-popup="false">
      <display-names>
        <display-name locale="ja">メニューグループ 1 </display-name>
        <display-name locale="en">menu group 1</display-name>
      </display-names>
      <menu-item menu-id="menu-item-1-1" sort-number="0" type="item" url="xxxx/xxx/xxx"
method="get" use-iframe="false" use-popup="false">
        <display-names>
          <display-name locale="ja">メニューアイテム 1 - 1 </display-name>
          <display-name locale="en">menu item 1-1</display-name>
        </display-names>
      </menu-item>
      <menu-item menu-id="menu-item-1-2" sort-number="1" type="item" url="xxxx/xxx/xxx"
method="get" use-iframe="false" use-popup="false">
        <display-names>
          <display-name locale="ja">メニューアイテム 1 - 2 </display-name>
          <display-name locale="en">menu 1-2</display-name>
        </display-names>
      </menu-item>
      <menu-item menu-id="menu-folder-1-3" sort-number="2" type="folder" url="empty"
method="get" use-iframe="false" use-popup="false">
        <display-names>
          <display-name locale="ja">メニューフォルダ 1 - 3 </display-name>
          <display-name locale="en">menu folder 1-3</display-name>
        </display-names>
        <menu-item menu-id="menu-item-1-3-1" sort-number="1" type="item" url="xxxx/xxx/xxx"
image-path="" method="get" use-iframe="true" use-popup="false">
          <display-names>
            <display-name locale="ja">メニューアイテム 1 - 3 - 1 </display-name>
            <display-name locale="en">menu item 1-3-1</display-name>
          </display-names>
        </menu-item>
      </menu-item>
    </menu-group-data>
    <menu-group-data id="menu-group-2">
      <category id="im_sitemap_pc"></category>
      <menu-item menu-id="menu-group-2" sort-number="2" type="folder" url="empty" method="get"
use-iframe="false" use-popup="false">
        <display-names>
          <display-name locale="ja">メニューグループ 2 </display-name>
          <display-name locale="en">menu group 2</display-name>
        </display-names>
        <menu-item menu-id="menu-item-2-1" sort-number="0" type="item" url="xxxx/xxx/xxx" image-
path="" method="get" use-iframe="false" use-popup="false">
          <display-names>
            <display-name locale="ja">メニューアイテム 2 - 1 </display-name>
            <display-name locale="en">menu item 2-1</display-name>
          </display-names>
        </menu-item>
      </menu-group-data>
    </root>

```

上記のXMLファイルをインポートした場合、画面上のメニューは次のようになります。

The screenshot shows the 'サイトマップ' (Site Map) page in Intra-mart. It displays two menu groups side-by-side. The first group, 'メニューグループ1', has a tree structure with three items: 'メニューアイテム1-1', 'メニューアイテム1-2', and a folder 'メニューフォルダ1-3' containing 'メニューアイテム1-3-1'. The second group, 'メニューグループ2', has a single item 'メニューアイテム2-1'.

「XMLファイルの例」をインポートした結果

注意

メニューアイテムや外部メニューリンクの配下にメニューアイテムを配置しないでください。配置した場合、強制的にメニューフォルダに変換されてしまいます。

コラム

メニューフォルダの配下にメニューアイテムを配置することで、メニューの階層構造が構築されます。上記の例ではメニューID `menu-folder-1-3` のメニューフォルダ配下に、メニューID `menu-item-1-3-1` のメニューアイテムが設定されています。

コラム

上記「XMLファイルの例」のように、英語、日本語の表示名しかない場合、個人設定のロケールを中国語にすると、メニューはテナントロケールの表示名で表示されます。

メニューグループ情報

`<menu-group-data>` タグにメニュー情報を記述します。

項目	ノード名	説明
メニューグループID	<code>id</code>	システム内部で使用されるメニューグループの識別子です。
ルートのメニューID	<code>menu-id</code>	メニューグループ内のルートメニューの識別子です。

**注意**

メニューグループIDとルートメニューIDは一致させる必要があります。

メニューグループカテゴリ内包情報

メニューグループがどのメニューグループカテゴリに属しているかの情報です。

`<category>` タグにメニューグループカテゴリ情報を記述します。

項目	ノード名	説明
メニューグループカテゴリ ID	<code>id</code>	メニューグループと紐付けられているメニューグループカテゴリのIDです。

メニュー情報

`<menu-item>` タグにメニュー情報を記述します。

項目	ノード名	説明								
メニューID	<code>menu-id</code>	システム内部で使用されるメニューの識別子です。								
ソート番号	<code>sort-number</code>	メニューが表示されるときソート順を決める値です。								
メニューのデータ種別	<code>type</code>	メニューのデータ種別を指定します。 <table border="1" data-bbox="817 1086 1216 1361"> <thead> <tr> <th>指定する値</th> <th>データ種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>item</td> <td>メニューアイテム</td> </tr> <tr> <td>folder</td> <td>メニューフォルダ</td> </tr> <tr> <td>external</td> <td>外部メニューリンク</td> </tr> </tbody> </table>	指定する値	データ種別	item	メニューアイテム	folder	メニューフォルダ	external	外部メニューリンク
指定する値	データ種別									
item	メニューアイテム									
folder	メニューフォルダ									
external	外部メニューリンク									
URL	<code>url</code>	メニューのリンク先 URL です。 <table border="1" data-bbox="817 1451 1270 1675"> <thead> <tr> <th>パス種別</th> <th>例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相対パス</td> <td>menu/sitemap</td> </tr> <tr> <td>絶対パス</td> <td>http://www.intra-mart.jp</td> </tr> </tbody> </table>	パス種別	例	相対パス	menu/sitemap	絶対パス	http://www.intra-mart.jp		
パス種別	例									
相対パス	menu/sitemap									
絶対パス	http://www.intra-mart.jp									
画像ファイルパス	<code>image-path</code>	メニューのアイコン画像のパスです。コンテキストパス配下の URL を指定します。								
コピー元メニューID	<code>original-menu-id</code>	メニューをコピーして作成する場合に、コピー元のメニューIDを指定します。								
HTTPメソッド	<code>method</code>	メニューからアクセスするときのリクエスト方式を指定します。 指定できる値は、 <code>get</code> と <code>post</code> です。								

IFRAME使用フラグ `use-iframe` リンク先を表示するときにIFRAMEを使うかどうかを指定します。

指定する値	説明
true	IFRAMEを使う
false	IFRAMEを使わない

ポップアップ使用フラグ `use-popup` リンク先を表示するときにポップアップで表示するかどうかを指定します。

指定する値	説明
true	ポップアップで表示する
false	ポップアップで表示しない

説明 `<description>` メニューの説明です。

- **メニューフォルダ**

メニュー情報を構成する項目のうち、メニューフォルダで使用されるのは以下の通りです。

- メニューID
- ソート番号
- メニューのデータ種別
- 画像ファイルパス
- 説明

- **メニューアイテム**

メニューアイテムでは全ての項目を使用します。

- **外部メニューリンク**

メニュー情報を構成する項目のうち、使用されるのは以下の通りです。

- メニューID
- ソート番号
- メニューのデータ種別
- URL

メニュー引数情報

`<arguments>` タグ配下に、メニュー引数の数だけ `<argument>` タグを記述します。

項目	ノード名	説明
キー	<code>key</code>	引数のキーを指定します。
値	<code>value</code>	引数の値を指定します。

メニューに設定された表示名です。
ロケールごとの表示名を保持します。

`<display-names>` タグ配下にロケールの数だけ `<display-name>` タグを記述します。

項目	ノード名	説明
ロケールID	<code>locale</code>	メニュー表示名のロケールです。ロケールIDで設定します。
表示名	<code><display-name></code>	メニューに設定されている言語別の表示名です。ロケールごとに設定可能です。

互換性

intra-mart Accel Platform で利用するメニューのインポートファイルは、intra-mart WebPlatform/AppFramework のメニューで利用するインポートファイルと互換性がありません。

項目

- 更新モード
 - merge
 - replace
 - revive
- メニューグループカテゴリ
 - XML
 - メニューグループカテゴリの更新モード
 - merge
 - replace
- メニューグループ
 - XML
 - メニューグループの更新モード
 - merge
 - replace
 - revive
- インポートの依存関係

メニューのインポートはXML形式で行うことが可能です。
マスタ情報の新規登録、更新を行うことができます。

この章では、インポートがどのように行われるかを説明します。
また、更新モードによる更新方法の違いについて説明します。

更新モード

更新モードを利用することで、インポートの目的にあわせたデータの更新を行うことができます。
更新モードには、**merge**、**replace**、**revive** が提供されています。
`update-mode` 属性を指定することでモードを設定します。

各更新モードの仕様は次の通りです。

実際の動作や用途については、[メニューグループカテゴリの更新モード](#)、[メニューグループの更新モード](#)を参照してください。

メニューグループカテゴリ、メニューグループのインポートにおいて、削除を行う更新モードは提供されていません。

merge

インポートファイルのデータとデータベース上のデータをマージして更新します。
インポートファイルに存在しない項目は既存のデータをそのまま設定します。

replace

インポートファイルのデータに存在しない情報は未設定の値（デフォルト値）で更新します。
インポートファイルに存在しない項目は既存のデータを未設定に更新します。

インポートファイルのデータと同じキーのデータがデータベースに存在する場合、何もしません。
同じキーのデータがデータベースに存在しない場合、インポートファイルのデータが新規追加されます。
ただし、一部のデータに関しては、インポート対象データの親となるレコードがデータベースに存在する場合、何も
しません。



注意

更新モード **revive** は、intra-mart Accel Platform 2014 Spring(Granada) 以降で利用可能です。

メニューグループカテゴリ

XML

メニューグループカテゴリは **メニューグループ** とは独立してインポートすることができます。

`<menu-group-category-data>` タグを1レコードとしてインポートします。

ファイルのフォーマットについては「[XMLファイルフォーマット](#)」を参照してください。

インポート時の動作をオプションとして指定が可能です。

インポート時に利用可能なオプションについては、「[インポートオプション](#)」を参照してください。

メニューグループカテゴリの更新モード

メニューグループカテゴリの更新モードには *merge*、*replace* が提供されています。

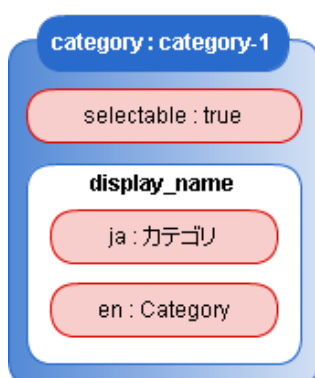
`update-mode` 属性は、`<menu-group-category-data>` タグに指定します。

特に指定していない場合、*merge* モードで動作します。

merge

属性や表示名を更新したり、未登録ロケールの表示名を追加する場合に利用します。

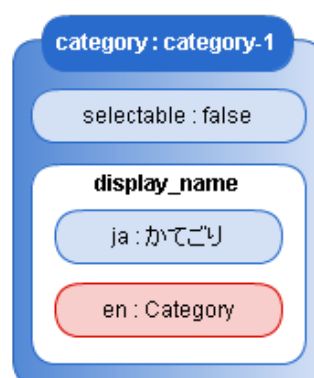
既存データ



インポートデータ



インポート後のデータ



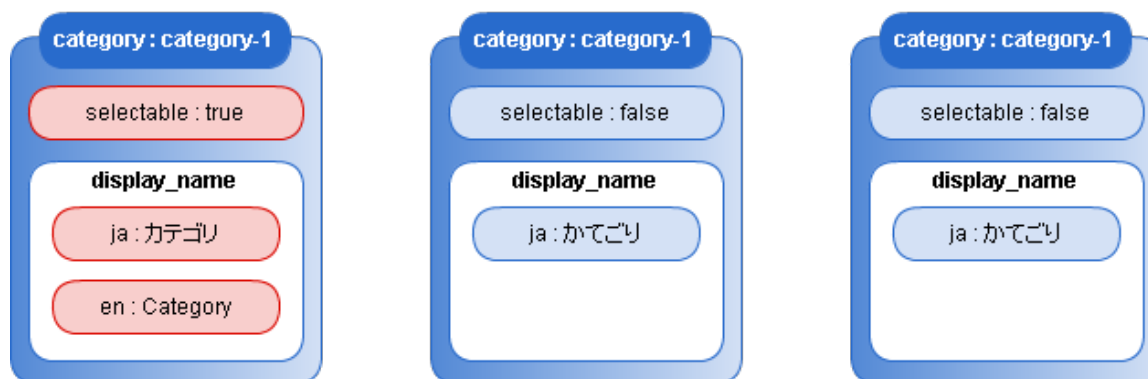
replace

既存の表示名を削除して、新たに登録する場合に利用します。

既存データ

インポートデータ

インポート後のデータ



メニューグループ

XML

メニューグループのインポートは、メニューグループをルートとした配下のメニュー階層構造全体を1件のインポートデータとして取り扱います。

[メニューグループカテゴリ](#)とは独立してインポートすることができます。

`<menu-group-data>` タグを1トランザクションとして、以下の情報をインポートします。
ファイルのフォーマットについては「[XMLファイルフォーマット](#)」を参照してください。

- [メニューグループ情報](#)
- メニューの情報 ([メニュー情報](#)と[メニュー引数情報](#)と[メニュー表示名情報](#))
- [メニューグループカテゴリ内包情報](#)

メニューグループの更新モード

メニューグループの更新モードには [merge](#)、[replace](#)、[revive](#) が提供されています。

`update-mode` 属性は、`<menu-group-data>` タグに指定します。

特に指定していない場合、[merge](#) モードで動作します。

ただし、テナント環境セットアップ時におけるテナントマスタ情報のインポートで実施されるメニューグループのインポートについては、`update-mode` 属性を指定しない場合、[revive](#) モードで動作します。

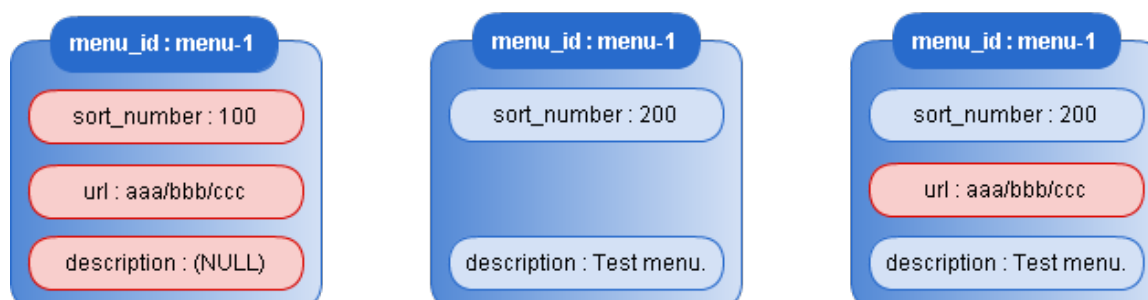
merge

既存のメニューを更新したり、メニューを追加したい場合に利用します。

既存データ

インポートデータ

インポート後のデータ

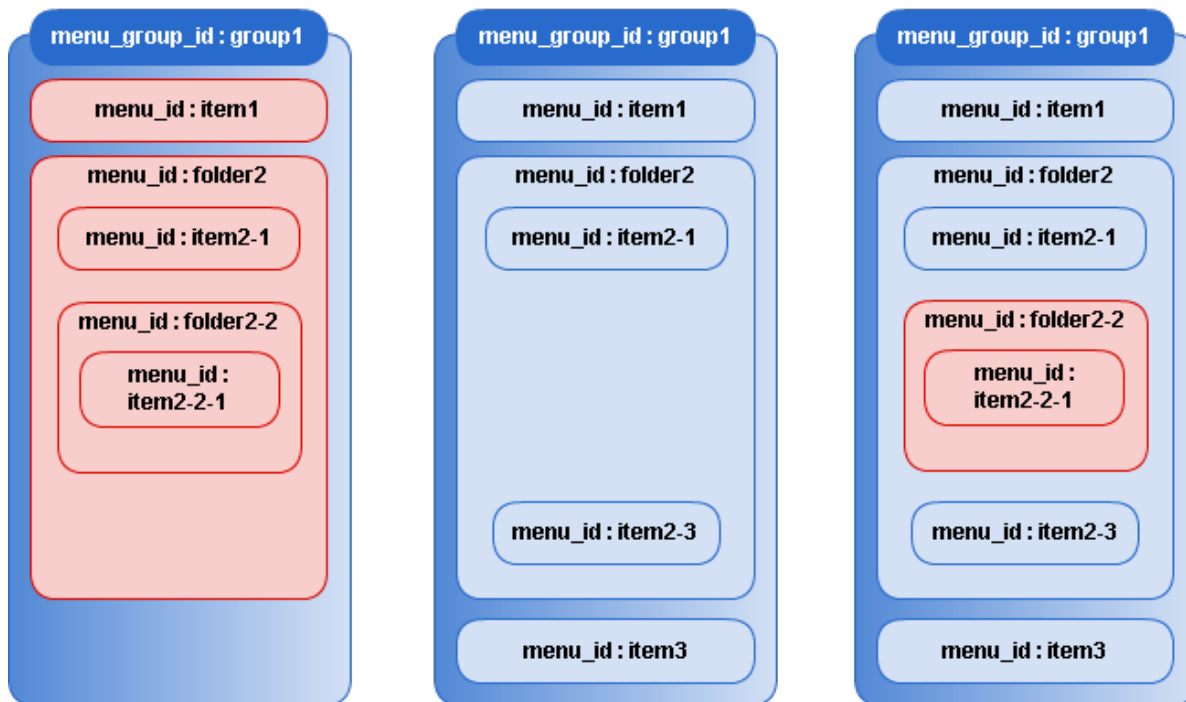


インポートファイルとデータベース上に同じメニューグループIDが存在する場合、配下のメニュー階層をマージします。

既存データ

インポートデータ

インポート後のデータ



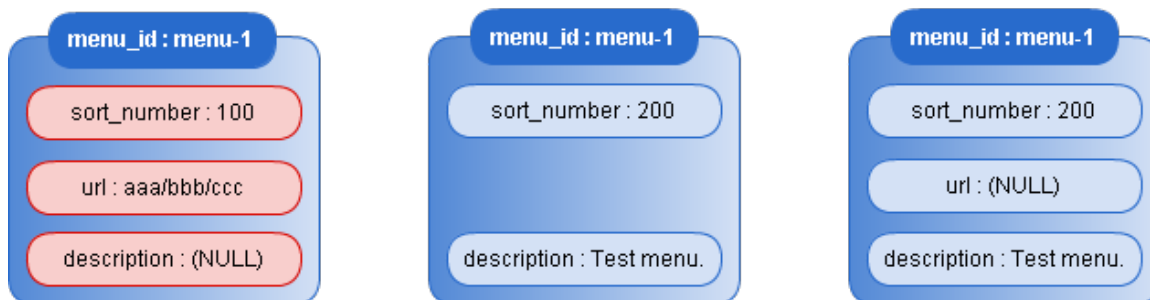
replace

既存のメニューを削除して、インポートファイルのメニューで置き換えたい場合に利用します。

既存データ

インポートデータ

インポート後のデータ

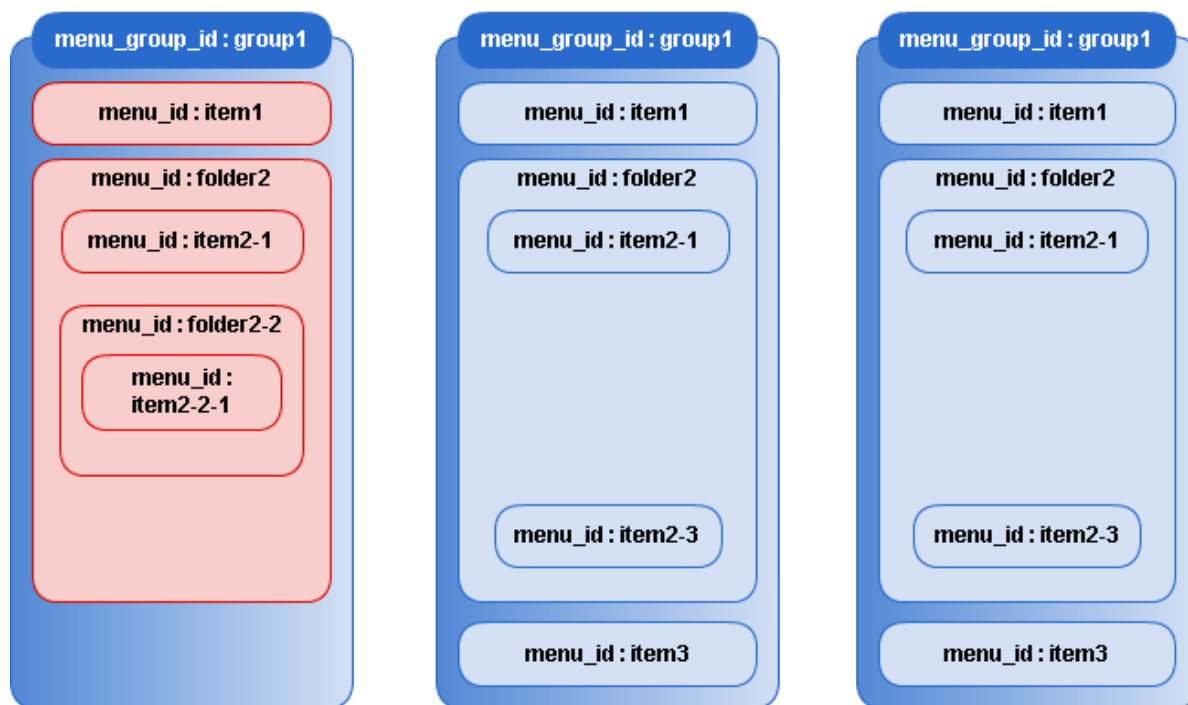


インポートファイルとデータベース上に同じメニューグループIDが存在する場合、メニュー階層の子メニューを全て削除してから、インポートファイルのデータを登録します。

既存データ

インポートデータ

インポート後のデータ



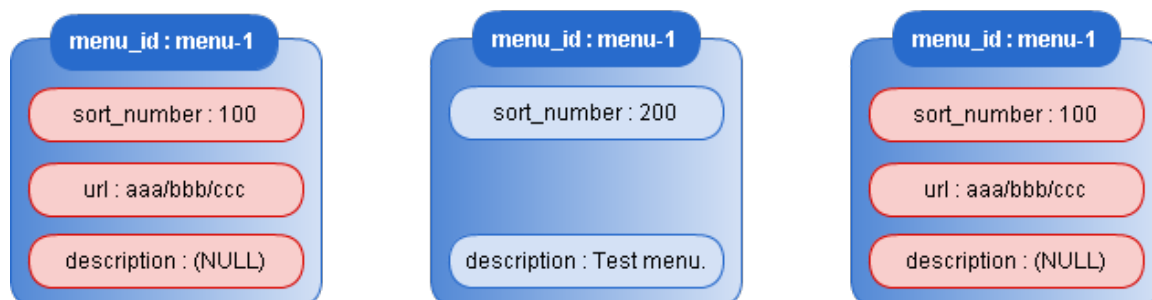
revive

既存のメニューは更新せずに、メニューの追加のみを行いたい場合に利用します。

既存データ

インポートデータ

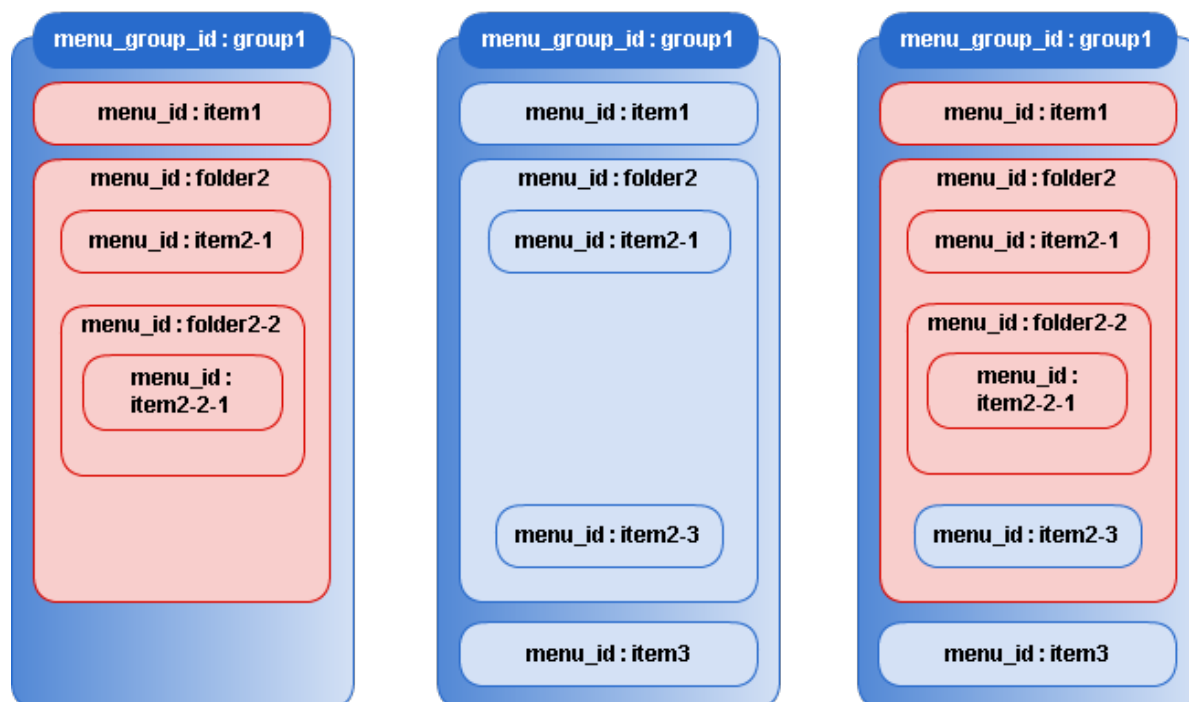
インポート後のデータ



既存データ

インポートデータ

インポート後のデータ

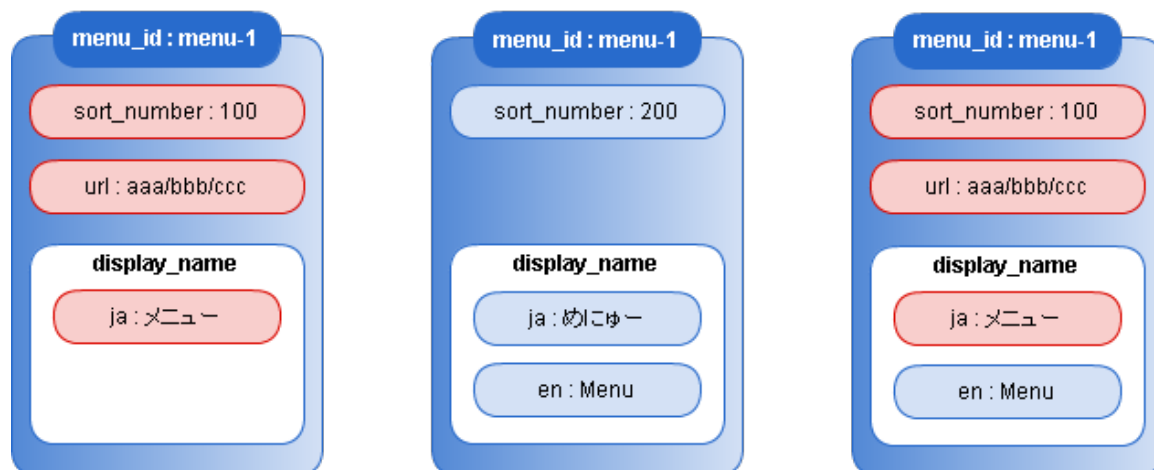


以下のような場合、未登録ロケールの表示名を追加します。

既存データ

インポートデータ

インポート後のデータ



インポートの依存関係

メニューグループをインポートする際、あらかじめメニューグループカテゴリを登録する必要があります。

項目

- [メニューグループカテゴリ](#)
 - [XML](#)
- [メニューグループ](#)
 - [XML](#)

メニューのエクスポートはXML形式で行うことが可能です。

すべてのマスタ情報を出力することができます。

この章では、エクスポートがどのように行われるかを説明します。

メニューグループカテゴリ

XML

すべてのメニューグループカテゴリとそれに関連する情報をXML形式でファイルに出力します。

ファイルのフォーマットについては「[XML ファイルフォーマット](#)」を参照してください。

メニューグループ

XML

すべてのメニューグループと、その配下に登録されているメニューに関連する情報をXML形式でファイルに出力します。

ファイルのフォーマットについては「[XML ファイルフォーマット](#)」を参照してください。

また、エクスポート時の動作をオプションとして指定が可能です。

エクスポート時に利用可能なオプションについては、「[エクスポートオプション](#)」を参照してください。

項目

- インポートオプション
- エクスポートオプション

インポート・エクスポートで扱うファイルなどの設定や、インポート・エクスポート処理の動作を変更するためのオプションが用意されています。

この章では、インポート・エクスポート時に使用できるオプションについて説明します。

インポートオプション

この項では、インポートを行う際に使用可能なオプションについて説明します。



コラム

この項で説明されているインポートオプションは、メニューグループカテゴリ、メニューグループの両方で使用可能です。

設定可能項目一覧

名前	キー名	型	デフォルト値	導入バージョン
エンコーディング	encoding	文字列	UTF-8	2012 Autumn
ファイルパス	file	文字列	(なし)	2012 Autumn
コミット件数	commit-count	数値	0	2012 Autumn
XML検証フラグ	validate-xml	真偽値	true	2012 Autumn

エンコーディング

キー名 encoding

インポートするXMLファイルの文字エンコーディングを指定します。

ファイルパス

キー名 file

インポートするXMLファイルのパス（パブリックストレージのルートからの相対パス）を指定します。

コミット件数

キー名 commit-count

インポート処理で、コミットを行うまでのデータ件数を指定します。

コミット件数に「0」（デフォルト値）が指定された場合は、インポート処理が完了するまでコミットが行われません。



注意

commit-count を指定した場合、インポート実行元で管理しているトランザクションがコミットされる可能性があります。

XML検証フラグ

キー名 validate-xml

インポートするXMLファイルの構文を検証するかどうかを指定します。

指定する値	説明
true	XML構文の検証を行います。（デフォルト値）
false	XML構文の検証を行いません。

エクスポートオプション

この項では、エクスポートを行う際に使用可能なオプションについて説明します。



コラム

この項で説明されているエクスポートオプションは、メニューグループカテゴリ、メニューグループの両方で使用可能です。

設定可能項目一覧

名前	キー名	型	デフォルト値	導入バージョン
エンコーディング	encoding	文字列	UTF-8	2012 Autumn
ファイルパス	file	文字列	(なし)	2012 Autumn
XML整形フラグ	format-xml	真偽値	false	2012 Autumn
ルートタグ名	root-tag-name	文字列	root	2012 Autumn
書き込み件数	flush-count	数値	5000	2012 Autumn

キー名 encoding

エクスポートするXMLファイルの文字エンコーディングを指定します。

ファイルパス

キー名 file

エクスポートするXMLファイルのパス（パブリックストレージのルートからの相対パス）を指定します。

XML整形フラグ

キー名 format-xml

エクスポートするXMLファイルを整形するかどうかを指定します。

指定する値	説明
true	XMLの整形を行います。
false	XMLの整形を行いません。（デフォルト値）

ルートタグ名

キー名 root-tag-name

エクスポートするXMLファイルのルートタグ名を指定します。

書き込み件数

キー名 flush-count

エクスポートするXMLファイルに一度に書き込むデータ件数を指定します。

項目

- ジョブスケジューラを利用する
 - ジョブ
 - インポート
 - エクスポート
 - ジョブネット
 - インポート
 - エクスポート
- Javaから実行する
 - インポート
 - エクスポート
- スクリプト開発モデルプログラムから実行する
 - インポート
 - エクスポート

この項では、メニューグループカテゴリのインポート・エクスポートを実行する手段を紹介します。



注意

インポートしたデータをエクスポートする場合、またはエクスポートしたデータをインポートする場合は、「エンコーディング」などの対応するオプションは同じ値を指定する必要があります。

ジョブスケジューラを利用する

ジョブスケジューラの機能を利用してインポート・エクスポートを実行する方法を紹介します。

ジョブスケジューラの詳細については「[ジョブスケジューラ仕様書](#)」を参照してください。

intra-mart Accel Platform ではメニューグループカテゴリのインポート・エクスポートを行うためのジョブ・ジョブネットを提供しています。

この項では、intra-mart Accel Platform が標準で提供しているメニューグループのインポート・エクスポートを行うジョブ・ジョブネットの情報を紹介します。

ジョブ

インポート

ジョブカテゴリ テナントマスタ > インポート

ジョブID menu-group-category-import

ジョブ名 メニューグループカテゴリインポート

エクスポート

ジョブカテゴリ テナントマスタ > エクスポート

ジョブID	menu-group-category-export
ジョブ名	メニューグループカテゴリエクスポート

ジョブネット

インポート

ジョブネットカテゴリ	テナントマスタ > インポート
ジョブネットID	menu-group-category-import-jobnet
ジョブネット名	メニューグループカテゴリインポート

エクスポート

ジョブネットカテゴリ	テナントマスタ > エクスポート
ジョブネットID	menu-group-category-export-jobnet
ジョブネット名	メニューグループカテゴリエクスポート

コラム

ジョブスケジューラ利用時のオプションについて

ジョブスケジューラを利用してインポート・エクスポートを実行する場合は、ジョブ・ジョブネットのパラメータに「[オプション](#)」を指定します。

コラム

ジョブスケジューラ利用時のトランザクション管理について

ジョブスケジューラを利用したインポートでは、オプション `commit-count` を指定しない場合、インポート処理が完了後に一括してコミットを行います。
必要に応じてオプション `commit-count` の値を変更してご利用ください。

Javaから実行する

JavaのAPIを利用してインポート・エクスポートを実行する方法を紹介します。

インポート

`DataImportExecutor#importData(String, InputStream, Map)` を利用してインポートを行います。

- 完全修飾クラス名

```
jp.co.intra_mart.foundation.data.importer.DataImportExecutor
```

第1引数にはインポータIDを指定します。インポータIDは以下を利用します。

第2引数にはインポート元を `InputStream` で指定します。

第3引数にはインポートオプションを `Map<String, Object>` で指定します。
詳細は、「[インポートオプション](#)」を参照してください。

`DataImportExecutor` の詳細については「[DataImportExecutorクラスのAPIドキュメント](#)」を参照してください。

以下はインポートを行うサンプルプログラムです。

```
package sample;

import java.io.IOException;
import java.io.InputStream;
import java.util.HashMap;
import java.util.Map;

import jp.co.intra_mart.foundation.data.OptionKeyName;
import jp.co.intra_mart.foundation.data.exception.DataImporterException;
import jp.co.intra_mart.foundation.data.importer.DataImportExecutor;
import jp.co.intra_mart.foundation.service.client.file.PublicStorage;

/**
 * メニューグループカテゴリのインポートを行うクラスです。
 */
public class MenuGroupCategoryImporter {

    private static final String IMPORTER_ID =
"jp.co.intra_mart.import.StandardMenuGroupCategoryXmlImporter";

    /**
     * メニューグループカテゴリのインポートを行います。
     * @throws DataImporterException インポートで何らかの例外が発生した場合。
     */
    public void doImport() throws DataImporterException {
        final DataImportExecutor executor = new DataImportExecutor();
        final Map<String, Object> options = new HashMap<String, Object>();
        options.put(OptionKeyName.ENCODING.value(), "UTF-8");
        options.put(OptionKeyName.VALIDATE_XML.value(), true);
        options.put(OptionKeyName.COMMIT_COUNT.value(), 100);
        // パブリックストレージ直下のmenu-group-category.xmlを選択
        final PublicStorage storage = new PublicStorage("menu-group-category.xml");
        try {
            // PublicStorageからInputStreamを取得
            final InputStream stream = storage.open();
            try {
                executor.importData(IMPORTER_ID, stream, options);
            } finally {
                stream.close();
            }
        } catch (final IOException e) {
            throw new DataImporterException(e);
        }
    }
}
```

**注意**

第2引数の `InputStream` を指定した場合は、オプション `file` は利用できません。
オプション `file` を利用したい場合は、第2引数に `null` を指定してください。

**注意**

メニューグループカテゴリのインポートには認可による管理権限が必要です。
詳しくは [メニューにおける認可の仕様](#) を参照してください。

エクスポート

`DataExportExecutor#exportData(String, OutputStream, Map)` を利用してエクスポートを行います。

- 完全修飾クラス名

`jp.co.intra_mart.foundation.data.exporter.DataExportExecutor`

第1引数にはエクスポートIDを指定します。エクスポートIDは以下を利用します。

`jp.co.intra_mart.import.StandardMenuGroupCategoryXmlExporter`

第2引数にはエクスポート先を `OutputStream` で指定します。

第3引数にはエクスポートオプションを `Map<String, Object>` で指定します。

詳細は、「[エクスポートオプション](#)」を参照してください。

`DataExportExecutor` の詳細については「[DataExportExecutorクラスのAPIドキュメント](#)」を参照してください。

以下はエクスポートを行うサンプルプログラムです。

```

package sample;

import java.io.IOException;
import java.io.OutputStream;
import java.util.HashMap;
import java.util.Map;

import jp.co.intra_mart.foundation.data.OptionKeyName;
import jp.co.intra_mart.foundation.data.exception.DataExporterException;
import jp.co.intra_mart.foundation.data.exporter.DataExportExecutor;
import jp.co.intra_mart.foundation.service.client.file.PublicStorage;

/**
 * メニューグループカテゴリのエクスポートを行うクラスです。
 */
public class MenuGroupCategoryExporter {

    private static final String EXPORTER_ID =
"jp.co.intra_mart.export.StandardMenuGroupCategoryXmlExporter";

    /**
     * メニューグループカテゴリのエクスポートを行います。
     * @throws DataExporterException エクスポートで何らかの例外が発生した場合。
     */
    public void doExport() throws DataExporterException {
        final DataExportExecutor executor = new DataExportExecutor();
        final Map<String, Object> options = new HashMap<String, Object>();
        options.put(OptionKeyName.ENCODING.value(), "UTF-8");
        options.put(OptionKeyName.FORMAT_XML.value(), false);
        options.put(OptionKeyName.FETCH_COUNT.value(), 10);
        // パブリックストレージ直下のmenu-group-category.xmlを選択
        final PublicStorage storage = new PublicStorage("menu-group-category.xml");
        try {
            // PublicStorageからOutputStreamを取得
            final OutputStream stream = storage.create();
            try {
                executor.exportData(EXPORTER_ID, stream, options);
            } finally {
                stream.close();
            }
        } catch (final IOException e) {
            throw new DataExporterException(e);
        }
    }
}

```



注意

第2引数の `OutputStream` を指定した場合は、オプション `file` は利用できません。
オプション `file` を利用したい場合は、第2引数に `null` を指定してください。

スクリプト開発モデルプログラムから実行する

スクリプト開発モデルのAPIを利用してインポート・エクスポートを実行する方法を紹介します。

`DataImportExecutor#importData(String, ByteReader, Object)` を利用してインポートを行います。

第1引数にはインポータIDを指定します。インポータIDは以下を利用します。

`jp.co.intra_mart.import.StandardMenuGroupCategoryXmlImporter`

第2引数にはインポート元を `ByteReader` で指定します。

第3引数にはインポートオプションをObject形式で指定します。

詳細は、「[インポートオプション](#)」を参照してください。

`DataImportExecutor` の詳細については「[DataImportExecutorオブジェクトのAPIドキュメント](#)」を参照してください。

以下はインポートを行うサンプルプログラムです。

```
var IMPORTER_ID = 'jp.co.intra_mart.import.StandardMenuGroupCategoryXmlImporter';

/**
 * メニューグループカテゴリのインポートを行います。
 */
function doImport() {
  var executor = new DataImportExecutor();
  var options = {
    'encoding': 'UTF-8',
    'validate-xml': true,
    'commit-count': 100
  };
  // パブリックストレージ直下のmenu-group-category.xmlを選択
  var storage = new PublicStorage('menu-group-category.xml');
  // ファイルからデータをインポート
  storage.openAsBinary(function(reader, error) {
    if (error) {
      // ファイルの読み込みに失敗 -> 例外処理
      Logger.getLogger().error(error.message);
      return;
    }

    var result = executor.importData(IMPORTER_ID, reader, options);
    if (result.error) {
      // インポート失敗 -> 例外処理
      Logger.getLogger().error(result.errorMessage);
    }
  });
}
```



注意

第2引数の `ByteReader` を指定した場合は、オプション `file` は利用できません。
 オプション `file` を利用したい場合は、第2引数に `null` を指定してください。

**注意**

メニューグループカテゴリのインポートには認可による管理権限が必要です。
詳しくは [メニューにおける認可の仕様](#) を参照してください。

エクスポート

`DataExportExecutor#importData(String, ByteWriter, Object)` を利用してエクスポートを行います。

第1引数にはエクスポートIDを指定します。| エクスポートIDは以下を利用します。

```
jp.co.intra_mart.import.StandardMenuGroupCategoryXmlExporter
```

第2引数にはエクスポート元を `ByteWriter` で指定します。

第3引数にはエクスポートオプションをObject形式で指定します。

詳細は、「[エクスポートオプション](#)」を参照してください。

`DataExportExecutor` の詳細については「[DataExportExecutorオブジェクトのAPIドキュメント](#)」を参照してください。

以下はインポートを行うサンプルプログラムです。

```
var EXPORTER_ID = 'jp.co.intra_mart.export.StandardMenuGroupCategoryXmlExporter';

/**
 * メニューグループカテゴリのエクスポートを行います。
 */
function doExport() {
  var executor = new DataExportExecutor();
  var options = {
    'encoding': 'UTF-8',
    'format-xml': false,
    'fetch-count': 10
  };
  // パブリックストレージ直下のmenu-group-category.xmlを選択
  var storage = new PublicStorage('menu-group-category.xml');
  // ファイルにデータをエクスポート
  storage.createAsBinary(function(writer, error) {
    if (error) {
      // ファイルの作成に失敗 -> 例外処理
      Logger.getLogger().error(error.message);
      return;
    }

    var result = executor.exportData(EXPORTER_ID, writer, options);
    if (result.error) {
      // エクスポートに失敗 -> 例外処理
      Logger.getLogger().error(result.errorMessage);
    }
  });
}
```



注意

第2引数の `ByteWriter` を指定した場合は、オプション `file` は利用できません。
オプション `file` を利用したい場合は、第2引数に `null` を指定してください。

項目

- ジョブスケジューラを利用する
 - ジョブ
 - インポート
 - エクスポート
 - ジョブネット
 - インポート
 - エクスポート
- Javaから実行する
 - インポート
 - エクスポート
- スクリプト開発モデルプログラムから実行する
 - インポート
 - エクスポート

この項では、メニューグループのインポート・エクスポートを実行する手段を紹介します。



注意

インポートしたデータをエクスポートする場合、または、エクスポートしたデータをインポートする場合は、「エンコーディング」などの対応するオプションは同じ値を指定する必要があります。

ジョブスケジューラを利用する

ジョブスケジューラの機能を利用してインポート・エクスポートを実行する方法を紹介します。

ジョブスケジューラの詳細については「[ジョブスケジューラ仕様書](#)」を参照してください。

intra-mart Accel Platform ではメニューグループカテゴリ、メニューグループのインポート・エクスポートを行うためのジョブ・ジョブネットを提供しています。

この項では、intra-mart Accel Platform が標準で提供しているメニューグループカテゴリ、メニューグループのインポート・エクスポートを行うジョブ・ジョブネットの情報を紹介します。

ジョブ

インポート

ジョブカテゴリ テナントマスタ > インポート

ジョブID menu-group-import

ジョブ名 メニューグループインポート

エクスポート

ジョブカテゴリ テナントマスタ > エクスポート

ジョブID menu-group-export

ジョブ名	メニューグループエクスポート
------	----------------

ジョブネット

インポート

ジョブネットカテゴリ	テナントマスタ > インポート
------------	-----------------

ジョブネットID	menu-group-import-jobnet
----------	--------------------------

ジョブネット名	メニューグループインポート
---------	---------------

エクスポート

ジョブネットカテゴリ	テナントマスタ > エクスポート
------------	------------------

ジョブネットID	menu-group-export-jobnet
----------	--------------------------

ジョブネット名	メニューグループエクスポート
---------	----------------



コラム

ジョブスケジューラ利用時のオプションについて

ジョブスケジューラを利用してインポート・エクスポートを実行する場合は、ジョブ・ジョブネットのパラメータに「[オプション](#)」を指定します。



コラム

ジョブスケジューラ利用時のトランザクション管理について

ジョブスケジューラを利用したインポートでは、オプション `commit-count` を指定しない場合、インポート処理が完了後に一括してコミットを行います。
必要に応じてオプション `commit-count` の値を変更してご利用ください。

Javaから実行する

JavaのAPIを利用してインポート・エクスポートを実行する方法を紹介します。

インポート

`DataImportExecutor#importData(String, InputStream, Map)` を利用してインポートを行います。

- 完全修飾クラス名

`jp.co.intra_mart.foundation.data.importer.DataImportExecutor`

第1引数にはインポータIDを指定します。インポータIDは以下を利用します。

`jp.co.intra_mart.import.StandardMenuGroupXmlImporter`

第2引数にはインポート元を `InputStream` で指定します。

第3引数にはインポートオプションを `Map<String, Object>` で指定します。

詳細は、「[インポートオプション](#)」を参照してください。

`DataImportExecutor` の詳細については「[DataImportExecutorクラスのAPIドキュメント](#)」を参照してください。

以下はインポートを行うサンプルプログラムです。

```
package sample;

import java.io.IOException;
import java.io.InputStream;
import java.util.HashMap;
import java.util.Map;

import jp.co.intra_mart.foundation.data.OptionKeyName;
import jp.co.intra_mart.foundation.data.exception.DataImporterException;
import jp.co.intra_mart.foundation.data.importer.DataImportExecutor;
import jp.co.intra_mart.foundation.service.client.file.PublicStorage;

/**
 * メニューグループのインポートを行うクラスです。
 */
public class MenuGroupImporter {

    private static final String IMPORTER_ID = "jp.co.intra_mart.import.StandardMenuGroupXmlImporter";

    /**
     * メニューグループのインポートを行います。
     * @throws DataImporterException インポートで何らかの例外が発生した場合。
     */
    public void doImport() throws DataImporterException {
        final DataImportExecutor executor = new DataImportExecutor();
        final Map<String, Object> options = new HashMap<String, Object>();
        options.put(OptionKeyName.ENCODING.value(), "UTF-8");
        options.put(OptionKeyName.VALIDATE_XML.value(), true);
        options.put(OptionKeyName.COMMIT_COUNT.value(), 100);
        // パブリックストレージ直下のmenu-group.xmlを選択
        final PublicStorage storage = new PublicStorage("menu-group.xml");
        try {
            // PublicStorageからInputStreamを取得
            final InputStream stream = storage.open();
            try {
                executor.importData(IMPORTER_ID, stream, options);
            } finally {
                stream.close();
            }
        } catch (final IOException e) {
            throw new DataImporterException(e);
        }
    }
}
```

**注意**

第2引数の `InputStream` を指定した場合は、オプション `file` は利用できません。
オプション `file` を利用したい場合は、第2引数に `null` を指定してください。

**注意**

メニューグループのインポートを行う場合は、必ずメニューグループの登録、および、更新が可能なユーザで行ってください。
詳しくは [メニューにおける認可の仕様](#) を参照してください。

エクスポート

`DataExportExecutor#exportData(String, OutputStream, Map)` を利用してエクスポートを行います。

- 完全修飾クラス名

```
jp.co.intra_mart.foundation.data.exporter.DataExportExecutor
```

第1引数にはエクスポートIDを指定します。 | エクスポートIDは以下を利用します。

```
jp.co.intra_mart.import.StandardMenuGroupXmlExporter
```

第2引数にはエクスポート先を `OutputStream` で指定します。

第3引数にはエクスポートオプションを `Map<String, Object>` で指定します。

詳細は、「[エクスポートオプション](#)」を参照してください。

`DataExportExecutor` の詳細については「[DataExportExecutorクラスのAPIドキュメント](#)」を参照してください。

以下はエクスポートを行うサンプルプログラムです。

```

package sample;

import java.io.IOException;
import java.io.OutputStream;
import java.util.HashMap;
import java.util.Map;

import jp.co.intra_mart.foundation.data.OptionKeyName;
import jp.co.intra_mart.foundation.data.exception.DataExporterException;
import jp.co.intra_mart.foundation.data.exporter.DataExportExecutor;
import jp.co.intra_mart.foundation.service.client.file.PublicStorage;

/**
 * ロールのエクスポートを行うクラスです。
 */
public class MenuGroupExporter {

    private static final String EXPORTER_ID = "jp.co.intra_mart.export.StandardMenuGroupXmlExporter";

    /**
     * メニューグループのエクスポートを行います。
     * @throws DataExporterException エクスポートで何らかの例外が発生した場合。
     */
    public void doExport() throws DataExporterException {
        final DataExportExecutor executor = new DataExportExecutor();
        final Map<String, Object> options = new HashMap<String, Object>();
        options.put(OptionKeyName.ENCODING.value(), "UTF-8");
        options.put(OptionKeyName.FORMAT_XML.value(), false);
        options.put(OptionKeyName.FETCH_COUNT.value(), 10);
        // パブリックストレージ直下のmenu-group.xmlを選択
        final PublicStorage storage = new PublicStorage("menu-group.xml");
        try {
            // PublicStorageからOutputStreamを取得
            final OutputStream stream = storage.create();
            try {
                executor.exportData(EXPORTER_ID, stream, options);
            } finally {
                stream.close();
            }
        } catch (final IOException e) {
            throw new DataExporterException(e);
        }
    }
}

```

注意

第2引数の `OutputStream` を指定した場合は、オプション `file` は利用できません。
 オプション `file` を利用したい場合は、第2引数に `null` を指定してください。

スクリプト開発モデルプログラムから実行する

スクリプト開発モデルのAPIを利用してインポート・エクスポートを実行する方法を紹介します。

`DataImportExecutor#importData(String, ByteReader, Object)` を利用してインポートを行います。

第1引数にはインポータIDを指定します。インポータIDは以下を利用します。

`jp.co.intra_mart.import.StandardMenuGroupXmlImporter`

第2引数にはインポート元を `ByteReader` で指定します。

第3引数にはインポートオプションをObject形式で指定します。

詳細は、「[インポートオプション](#)」を参照してください。

`DataImportExecutor` の詳細については「[DataImportExecutorオブジェクトのAPIドキュメント](#)」を参照してください。

以下はインポートを行うサンプルプログラムです。

```
var IMPORTER_ID = 'jp.co.intra_mart.import.StandardMenuGroupXmlImporter';

/**
 * メニューグループのインポートを行います。
 */
function doImport() {
  var executor = new DataImportExecutor();
  var options = {
    'encoding': 'UTF-8',
    'validate-xml': true,
    'commit-count': 100
  };
  // パブリックストレージ直下のmenu-group.xmlを選択
  var storage = new PublicStorage('menu-group.xml');
  // ファイルからデータをインポート
  storage.openAsBinary(function(reader, error) {
    if (error) {
      // ファイルの読み込みに失敗 -> 例外処理
      Logger.getLogger().error(error.message);
      return;
    }

    var result = executor.importData(IMPORTER_ID, reader, options);
    if (result.error) {
      // インポート失敗 -> 例外処理
      Logger.getLogger().error(result.errorMessage);
    }
  });
}
```

注意

第2引数の `ByteReader` を指定した場合は、オプション `file` は利用できません。
オプション `file` を利用したい場合は、第2引数に `null` を指定してください。

**注意**

メニューグループのインポートを行う場合は、必ずメニューグループの登録、および、更新が可能なユーザで行ってください。

詳しくは [メニューにおける認可の仕様](#) を参照してください。

エクスポート

`DataExportExecutor#importData(String, ByteWriter, Object)` を利用してエクスポートを行います。

第1引数にはエクスポートIDを指定します。エクスポートIDは以下を利用します。

```
jp.co.intra_mart.import.StandardMenuGroupXmlExporter
```

第2引数にはエクスポート元を `ByteWriter` で指定します。

第3引数にはエクスポートオプションをObject形式で指定します。

詳細は、「[エクスポートオプション](#)」を参照してください。

`DataExportExecutor` の詳細については「[DataExportExecutorオブジェクトのAPIドキュメント](#)」を参照してください。

以下はインポートを行うサンプルプログラムです。

```
var EXPORTER_ID = 'jp.co.intra_mart.export.StandardMenuGroupXmlExporter';

/**
 * メニューグループのエクスポートを行います。
 */
function doExport() {
  var executor = new DataExportExecutor();
  var options = {
    'encoding': 'UTF-8',
    'format-xml': false,
    'fetch-count': 10
  };
  // パブリックストレージ直下のmenu-group.xmlを選択
  var storage = new PublicStorage('menu-group.xml');
  // ファイルにデータをエクスポート
  storage.createAsBinary(function(writer, error) {
    if (error) {
      // ファイルの作成に失敗 -> 例外処理
      Logger.getLogger().error(error.message);
      return;
    }

    var result = executor.exportData(EXPORTER_ID, writer, options);
    if (result.error) {
      // エクスポートに失敗 -> 例外処理
      Logger.getLogger().error(result.errorMessage);
    }
  });
}
```



注意

第2引数の `ByteWriter` を指定した場合は、オプション `file` は利用できません。
オプション `file` を利用したい場合は、第2引数に `null` を指定してください。

項目

- [メニューインポートデータ定義書](#)

メニューインポートデータ定義書

メニューグループカテゴリ、メニューグループのインポート・エクスポートで利用するデータの詳細はメニューインポートデータ定義書として提供します。

メニューインポートデータ定義書は以下からダウンロードできます。

[「im_menu_import_export_definition.xls」](#)